

2007年度(平成19年度)教育研究(算数科)の方針

1. 算数科研究主題と仮説

筋道立てて論理的に思考できる子どもの育成

ルーブリック評価を取り入れて個々の考え方を適切に評価し、指導方法を工夫すれば、数学的な考え方を身につけ、意欲的に学びぬく子を育成できるであろう。

2. 昨年度の成果と反省

算数科アンケートにおいて、算数が好きと回答した児童は、全校で83%であり、課題に対して自力解決時に自分の力で解こうとする意欲が出てきていると言える。

日本標準c d t - 学力テストにおいて、「数学的な考え方」は4つの学年で全国平均より上回っている。しかし、2つの学年は、全国平均より下回っている。また、全学年で「数学的な考え方」が他の観点より弱いという傾向がみられる。

このことから、数値的には、「数学的な考え方」が、十分身につけている状況ではないと言える。

3. 本年度の課題と方針

全学年、どの領域においても問題解決型授業が行えるよう授業研究をすすめる。

本年度、研究主題は、筋道立てて論理的に思考できる子どもの育成とする。引き続き「数学的な考え方」を身につけさせることに重点をおき、論理的思考力をつけさせながら意欲的に学ぶ子の育成をすすめる。

昨年度からのルーブリック評価を分析し、児童実態を明確にする。分析結果を生かした単元指導案の工夫をし、どこをどのように工夫・改善したのかが分かるように指導案に説明書きを入れる。

座席表チェックカードを生かして、個の変容を追い「数学的な考え方」が身についたのか検証をすすめる。(現在の個を追ったカードの改善・工夫をすすめる)

4. 研究内容

授業を通して

課題設定の仕方の工夫・改善 (児童自身で課題設定できる)

自力解決時の場でのノート指導の見直し (自分の考えが書け、その根拠が書けるノート指導)

集団解決の場の工夫・改善 (児童どうして練り上げができる)

本時の課題と呼応したまとめ方の工夫・改善 (児童の言葉でまとめができる)

授業に生かせるルーブリック評価の工夫・改善 (ルーブリック評価を生かした単元指導案作成)

習熟度別少人数指導の工夫・改善 (発展・補充・深化のコースを設け効果的な習熟度別学習)

検証方法の工夫・改善 (毎時間の授業で得た評価情報を精選して、簡潔に記録する方法の具体)

数学的な考え方が身についたかどうかの検証 (テスト数値でないもので見取る児童実態の検証)

5. 研究方法

(1) 理論研究

数学的な考え方とは・・・の理論 ルーブリック評価・分析の仕方についての理論

(2) 授業研究

授業を通してと同じ

(3) 児童実態調査

算数科についての学力調査(2月初め実施4観点) 数学的な考え方を見取る調査

(4) 先進校視察

(5) 外部講師の招聘(松浦先生・宇田先生を中心に)